

土木学会四国支部「土木紀行」No. 79

阿波中央橋



写真1 阿波中央橋

吉野川を挟んで存在する阿波市吉野町高畑と吉野川市鴨島町知恵島、この2つの町を結ぶ13連の大きな橋がある。それが国道318号として存在する阿波中央橋である。

吉野川橋と穴吹橋の中央に位置するこの大橋はどのようにして建設されたのだろうか。それは昭和3年までさかのぼる。

昭和3年、吉野川を挟む柿原村(現：吉野町)と鴨島町の2町村は事業組合を設立させ、今の位置に木造の賃取橋架設の計画を立てた。そこで、善通寺師団工兵大十一大隊が架橋演習の教育訓練工事として橋を完成させることとなった。しかし、架橋してわずか10日後、吉野川の出水が原因で大半が流失してしまった。その後の20年間でも19回の流失や大破を繰り返し、そのたびに修復工事が行われた。工事中の物資の輸送などは、45~50km離れた吉野川橋か穴吹橋まで迂回をしなければならず、目の前にある対岸にこれほどまでの長い距離を遠回りしなくてはならないことに地元住民は不便さを感じていた。

そのような状況が続く中、昭和21年に「永久的な鉄橋に」という声が上がリ、阿波中央橋の計画は始まった。しかし、工事に着手できたのは4年後の昭和25年であった。そして幅6m、1径間長62.2m、13連も連なる全長820.6mの曲弦ワーレン単純トラス形式の大橋が完成したのは、さらに3年経った昭和28年3月のことであった。計画が開始されてから8年という長い時間がかかってしまった背景には、実は多くの苦難があった。

昭和21年、鴨島町長と柿島村長が県に対する中央橋架設建議案を決議したのが、阿波中央橋計画の始まりである。第二次世界大戦直後ということで物資不足の時代であったため、鋼材の節約が第一の目標となった。昭和22年には九大教授の三瀬と早大教授の真木の意見を聞き、橋脚の数をできるだけ抑えるために3径間連続トラスの形式に決まった。同年2月には建設省からの予算が内示され、4月には測量に取り掛かるなど順調に思えた。しかし、鋼材の入手に手間取ったことと、通貨膨張対策として預貯金の封鎖などで、鋼材購入のための地元負担金が集まらなかったことなどがあり、6月にはGHQの指令で事業認証は中止に追い込まれた。

昭和23年の出水によって当時使用していた木造の橋がまたもや流失した。これにより災害復旧工事費を受けることとなったのを機に、今度は鉄筋コンクリート潜水橋を計画した。翌24年には神戸市長の原口や日大教授の鈴木などを加え、川の水が増水しても使用できるようにと計画を見直した。構造は鋼材が少なく済む直弦ワーレン連続トラス橋が採用されたのだった。

こうして計画案が定まったように思えたが、GHQ は連続トラスの形式を認めず、単純トラスへと変更するように勧告した。

なぜこの時 GHQ は連続トラスを認めなかったのだろうか。それには当時の経済に関する時代背景が関わっていた。

戦後の日本は、失業者の発生への対応と新規学卒者の職業の確保が大きな課題となっていた。そのために昭和 24 年に GHQ が出した緊急失業対策法では、『失業者の生活の安定を図るとともに、経済の興隆に寄与すること』が目的とされ、土木や建築などの公共事業にできるだけ多くの失業者を吸収するようにしたのだ。

昭和 24 年の計画である直弦ワーレン連続トラスの予算は、事業費（工費、器具機械費、工事雑費、事務雑費）1 億 8000 万円で、その中の工費（橋脚台、橋脚工、築島工、橋体工、雑工、仮設費）は 1 億 5825 万円となっていた。しかし、昭和 25 年の計画変更後の曲弦ワーレン単純トラスの予算は事業費 2 億 537 万円。内工費は 1 億 8405 万円へと変更されたのだった。この 2 つの予算を比べてみると、事業費の中で工費以外には大きな変更はなく、工費は 2580 万円も増加しているのだ。

このようなことから、GHQ は人件費を増やすような設計にするように勧告したのではないかと推測され、「公共事業への雇用吸収」が GHQ の行った阿波中央橋の設計変更理由だったのではないと思われる。

昭和 25 年に単純トラスへ設計を変更した後、建設省から鋼材を譲り受け同年 4 月 25 日に着工した。そして、昭和 28 年 5 月 21 日、3 年余りの年月と約 6 万人の労力を費やして、ついに完成を迎えたのだった。開通式には県知事など関係者 1 千人が集まり、盛大に祝賀式典が挙げられた。新聞には踊りを踊ったりする様子などが大きく掲載されており、地域住民の多くが長年待ち望んだ中央橋の完成を喜んでいるようであった。



写真 2 GHQ への感謝と平和の願いが込められた親柱



写真 3 架橋由来の示された石造

【参考文献】

- (1) 阿波中央橋架設工事報告書
- (2) 徳島毎日新聞
- (3) 吉野町市(下巻)
- (4) 日本経済史

【執筆】

徳島大学工学部建設工学科 4 年 福井詞亨

【リンク】

土木学会四国支部「土木紀行」<http://doboku7.sakura.ne.jp/kikou/kikou.htm>

土木学会四国支部 <http://www.jsce7.jp/>